

都内のL452R変異株スクリーニング実施状況一覧

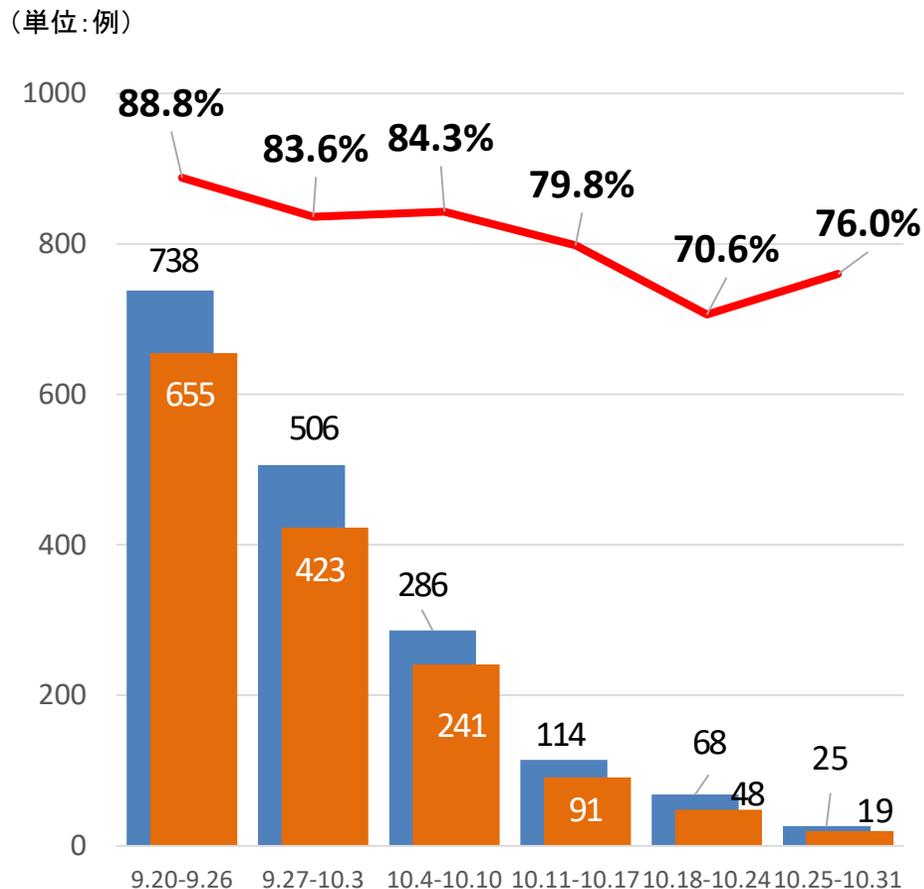
(令和3年11月11日 12時時点)

	合計数	4.29まで	4.30-5.2	5.3-5.9	5.10-5.16	5.17-5.23	5.24-5.30	5.31-6.6	6.7-6.13	6.14-6.20	6.21-6.27	6.28-7.4	7.5-7.11	7.12-7.18	7.19-7.25	7.26-8.1	8.2-8.8	8.9-8.15	8.16-8.22	8.23-8.29	8.30-9.5	9.6-9.12	9.13-9.19	9.20-9.26	9.27-10.3	10.4-10.10	10.11-10.17	10.18-10.24	10.25-10.31	11.1-11.7
新規陽性者数(報告日別)	—	—	2,627	5,588	5,647	4,544	3,904	2,983	2,687	2,713	3,346	4,074	5,137	7,482	10,241	22,155	29,024	30,820	34,173	27,147	17,926	9,719	5,734	2,553	1,451	803	423	219	172	141
変異株PCR検査実施数	113,109	—	76	121	103	139	372	309	1,002	1,516	1,770	2,336	3,050	4,220	5,689	12,249	15,096	16,411	16,657	14,253	9,282	4,435	2,281	738	506	286	114	68	25	5
健安研	1,920	—	76	121	103	89	65	38	37	63	86	69	81	86	96	141	127	174	123	116	87	89	24	9	1	13	6	0	0	0
地方衛生研究所(健安研以外)	264	—	—	—	—	—	—	—	—	15	1	7	7	23	9	16	29	36	55	19	24	11	2	1	5	0	0	4	0	0
民間検査機関等	110,925	—	—	—	—	50	307	271	965	1,438	1,683	2,260	2,962	4,111	5,584	12,092	14,940	16,201	16,479	14,118	9,171	4,335	2,255	728	500	273	108	64	25	5
変異株PCR検査実施割合	—	—	2.9%	2.2%	1.8%	3.1%	9.5%	10.4%	37.3%	55.9%	52.9%	57.3%	59.4%	56.4%	55.6%	55.3%	52.0%	53.2%	48.7%	52.5%	51.8%	45.6%	39.8%	28.9%	34.9%	35.6%	27.0%	31.1%	14.5%	—
L452R変異株陽性数	91,409	5	0	1	2	8	3	15	32	127	261	502	934	1,948	3,675	10,004	13,442	15,069	15,683	13,367	8,673	4,113	2,064	655	423	241	91	48	19	4
健安研	884	5	0	1	2	6	1	12	9	11	10	21	22	29	51	90	92	147	106	96	62	72	15	6	0	12	6	0	0	0
地方衛生研究所(健安研以外)	195	—	—	—	—	—	—	—	0	3	1	1	5	3	8	13	20	32	51	15	22	10	2	1	5	0	0	3	0	0
民間検査機関等	90,330	—	—	—	—	2	2	3	23	113	250	480	907	1,916	3,616	9,901	13,330	14,890	15,526	13,256	8,589	4,031	2,047	648	418	229	85	45	19	4
L452R変異株PCR検査陽性率	—	—	0.0%	0.8%	1.9%	5.8%	0.8%	4.9%	3.2%	8.4%	14.7%	21.5%	30.6%	46.2%	64.6%	81.7%	89.0%	91.8%	94.2%	93.8%	93.4%	92.7%	90.5%	88.8%	83.6%	84.3%	79.8%	70.6%	76.0%	—

- ※ 民間検査機関等の実施数については、追加の報告により、更新する可能性がある
- ※ L452Rスクリーニング検査については、健安研において4月30日から開始(4月29日以前については、健安研で4月1日から4月29日に受け付けた検体のうち、検査可能な検体から抽出し、改めてスクリーニング検査を実施)
- ※ L452Rスクリーニング検査について、民間検査機関等では、国の方針を受け、順次終了
- ※ 民間検査機関等には、大学や医療機関も含む
- ※ 地方衛生研究所(健安研以外)とは、東京都健康安全研究センター以外の都内の地方衛生研究所
- ※ 新規陽性者数(報告日別)については、10月29日の都公表数の修正を反映
- ※ 都内におけるL452R変異株確認例は、この「91,409例」の他に、L452R変異株スクリーニングを経ていない、国立感染症研究所のゲノム解析による確定例「33例」を加え、「91,442例」となる

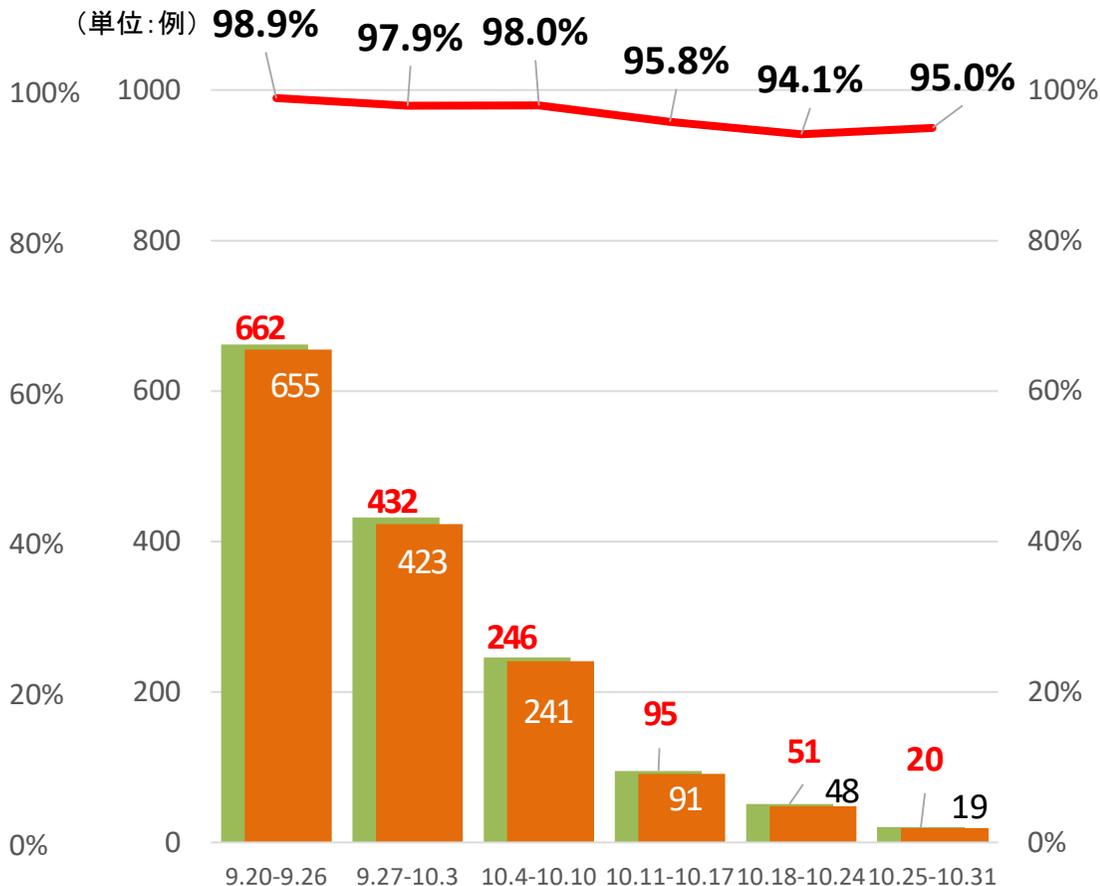
都内のL4 5 2 R変異株スクリーニング実施状況 (直近6週)

陽性率の推移



■ 変異株PCR検査実施数
 ■ L452R 陽性例の数
 — L452R 陽性率

陽性率の推移 (判定不能除く)



■ 変異株PCR検査実施数 (判定不能除く)
 ■ L452R 陽性例の数
 — L452R 陽性率

- ※ L452R変異株スクリーニング検査を、健安研では4月30日から、民間検査機関等は5月下旬から順次開始している
- ※ 変異株PCR検査実施数及び陽性例の数は、健安研、地方衛生研究所(健安研以外)及び民間検査機関等の合計
- ※ 変異株PCR検査実施数については、追加の報告により、更新する可能性がある。
- ※ 「判定不能」とは、ウイルス量が少ない等の理由により、変異についての判定ができないもの
- ※ 新規陽性者数(報告日)については、10月29日の都の公表数の修正を反映

【参考】 健安研における都内変異株の発生割合（推移） 一覧

（令和3年11月11日 12時時点）

＜東京都健康安全研究センターにおけるスクリーニング結果＞

		リアルタイムPCRによる変異株スクリーニング																																							
		合計数	2.15-2.21	2.22-2.28	3.1-3.7	3.8-3.14	3.15-3.21	3.22-3.28	3.29-4.4	4.5-4.11	4.12-4.18	4.19-4.25	4.26-5.2	5.3-5.9	5.10-5.16	5.17-5.23	5.24-5.30	5.31-6.6	6.7-6.13	6.14-6.20	6.21-6.27	6.28-7.4	7.5-7.11	7.12-7.18	7.19-7.25	7.26-8.1	8.2-8.8	8.9-8.15	8.16-8.22	8.23-8.29	8.30-9.5	9.6-9.12	9.13-9.19	9.20-9.26	9.27-10.3	10.4-10.10	10.11-10.17	10.18-10.24	10.25-10.31	11.1-11.7	
実施数		3,175	69	65	48	67	87	110	158	196	177	136	218	121	103	89	65	38	37	63	86	69	81	86	96	141	127	174	123	116	87	89	24	9	1	13	6	0	0	0	
N501Y	陽性数	1,058	0	0	3	2	5	9	51	74	58	81	148	74	68	62	46	19	22	45	67	43	48	44	32	37	14	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	構成比	33.3%	0.0%	0.0%	6.3%	3.0%	5.7%	8.2%	32.3%	37.8%	32.8%	59.6%	67.9%	61.2%	66.0%	69.7%	70.8%	50.0%	59.5%	71.4%	77.9%	62.3%	59.3%	51.2%	33.3%	26.2%	11.0%	1.7%	0.0%	1.7%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
E484K (単独変異)	陽性数	598	29	22	20	37	45	66	66	87	100	38	36	28	18	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	構成比	18.8%	42.0%	33.8%	41.7%	55.2%	51.7%	60.0%	41.8%	44.4%	56.5%	27.9%	16.5%	23.1%	17.5%	5.6%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
L452R (B.1.617系統)	陽性数	884	-	-	-	-	-	0	4	0	0	1	1	2	6	1	12	9	11	10	21	22	29	51	90	92	147	106	96	62	72	15	6	0	12	6	0	0	0		
	構成比	27.8%	-	-	-	-	-	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.8%	1.9%	6.7%	1.5%	31.6%	24.3%	17.5%	11.6%	30.4%	27.2%	33.7%	53.1%	63.8%	72.4%	84.5%	86.2%	82.8%	71.3%	80.9%	62.5%	66.7%	0.0%	92.3%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
その他	陽性数	635	40	43	25	28	37	35	41	31	19	17	33	18	15	16	17	7	6	7	9	5	11	13	13	14	21	24	17	18	25	16	9	3	1	1	0	0	0	0	
	構成比	20.0%	58.0%	66.2%	52.1%	41.8%	42.5%	31.8%	25.9%	15.8%	10.7%	12.5%	15.1%	14.9%	14.6%	18.0%	26.2%	18.4%	16.2%	11.1%	10.5%	7.2%	13.6%	15.1%	13.5%	9.9%	16.5%	13.8%	13.8%	15.5%	28.7%	18.0%	37.5%	33.3%	100.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%		

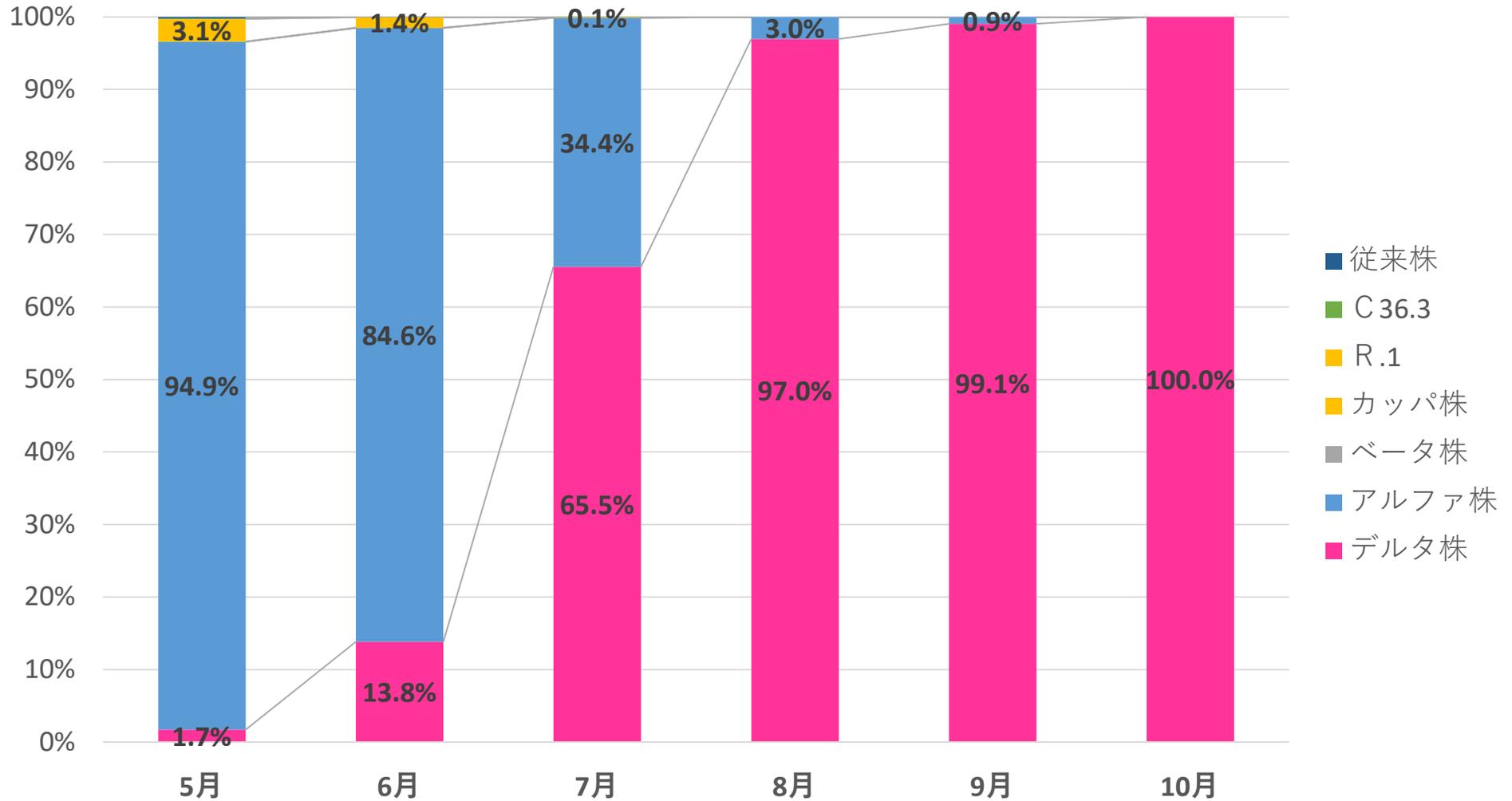
※ 東京都健康安全研究センターにおけるスクリーニング結果をもとに推計

※ L452Rについては、4月30日から開始。4月29日以前については、都健安研で4月1日から4月29日に受け付けた検体のうち、検査可能な検体から抽出し、改めてスクリーニング検査を実施

※ 「その他」には、従来株やウイルス量が少ない等の理由により解析ができなかった検体が含まれる。

ゲノム解析結果の推移

(令和3年11月11日12時時点)



※ 東京都健康安全研究センター及び国立感染症研究所における都内検体の、5月以降のゲノム解析の実績

※ 追加の報告により、更新する可能性あり

ゲノム解析結果について（内訳）

（令和3年11月11日12時時点）

名称	主な変異	5月	6月	7月	8月	9月	10月
アルファ株	N 5 0 1 Y	2,052	2,133	2,786	281	25	0
デルタ株	L 4 5 2 R	37	348	5,312	8,987	2,612	86
うち、 A Y.4.2		0	0	0	0	0	0
ベータ株	N 5 0 1 Y E 4 8 4 K	0	1	0	0	0	0
カッパ株	L 4 5 2 R E 4 8 4 Q	1	1	0	0	0	0
R.1	E 4 8 4 K	67	36	7	0	0	0
C36.3	L 4 5 2 R	1	0	0	0	0	0
従来株		5	1	1	0	0	0
計		2,163	2,520	8,106	9,268	2,637	86

※ 東京都健康安全研究センターおよび国立感染症研究所における都内検体の、5月以降のゲノム解析の実績

※ 追加の報告により、更新する可能性あり

変異株の分類の変更について

【感染研による国内における変異株の分類(令和3年10月28日時点)】

分類	該当する変異株	(参考) これまでの分類	主な対応	
懸念される変異株 (VOC)	ベータ株	VOC	対応	・ゲノムサーベイランス ・必要に応じて変異株PCR検査で監視 ・積極的疫学調査
	ガンマ株	VOC		
	デルタ株	VOC		
注目すべき変異株 (VOI)	該当なし		警戒	・ゲノムサーベイランスで監視 ・必要に応じて変異株PCR検査の準備 ・積極的疫学調査
監視下の変異株 (VUM) 【新設】	アルファ株	VOC	監視	・ゲノムサーベイランスで監視 ・発生状況や基本的性状の情報収集
	カッパ株	VOI		
	ラムダ株			
	ミュー株			
	A Y . 4 . 2			

- WHOで、9月より新たに、「**監視下の変異株(VUM: Variants Under Monitoring)**」の分類が設けられたことを受け、感染研においても、新たに「**監視下の変異株(VUM)**」を設定し、変異株の分類を変更した。

(参考)WHOにおけるVUMの対象

- ・ ウイルスの特性に影響を与えると思われる遺伝子変異を持つものの、疫学的な影響等の証拠が不明
- ・ VOCやVOIにかつて分類されていたが、その後検出されなくなった、あるいは公衆衛生的意義が薄れた

英国で感染が増加しているAY.4.2について

(英国の状況)

- ・ AY.4.2系統の変異株が、その他の変異株に比較して早く増加 (9/27の週で英国で解析された検体の6%程度の検出)
- ・ 英国健康安全保障庁は、AY.4.2の増加率は、AY.4.2以外と比べて17%高いと試算

(AY.4.2の特徴)

- ・ デルタ株の変異に加え、スパイクタンパクにY145H、A222Vの変異
- ・ これらの変異は、免疫逃避などの影響は少ないと考えられている

(国内の状況)

- ・ 検疫で、令和3年8月28日に英国滞在歴のある入国者1例から検出
- ・ 10月28日時点で、国内では検出なし
- ・ 感染研は、感染性が高まっている可能性を踏まえ、VUMに位置付け

「感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の新規変異株について(第14報)」 国立感染症研究所(2021年10月28日12:00時点)より作成



東京iCDCでは、ゲノム解析により、AY.4.2を含む変異株の発生動向を引き続き監視していく